

1 学校教育目標	2 本年度の重点目標
心豊かで、たくましく、自ら学ぶ”とすっ子”の育成 (1)「鳥栖市教育プラン」の推進 (2)めざす児童像 ○やさしいっばい ・相手の気持ちを考えて行動できる子 ・社会や地域に目を向け、多様性を認め、人や自然を大切にできる子 ○元気いっばい ・健康安全に気をつけ、体を鍛えることができる子 ・よいことを進んで行い、きまりやマナーを守ることができる子 ○やる気いっばい ・進んで学ぶことができる子(学び合い、発表、学習喜留津、家庭学習、読書) ・予想を立て、筋道を通して考え、根気強く解決することができる子 (3)めざす教師像 ○子どもと向き合い、子どもの良さを見つけ、認めて伸ばす温かい教師 ○授業力や生徒指導力を伸ばし、自らを向上させ続ける教師 ○保護者や地域と連携・協力しながらチームとして教育活動に取り組む教師 (4)めざす学校像 ○子どもの学ぶ意欲を高め、学力向上をめざす学校 ○子どものよさや頑張りを称賛し、自己肯定感を高める学校 (5)保護者・地域と連携した教育活動の推進 (6)鳥栖中学校区小中一貫教育(教科「日本語」)とユニバーサルデザイン教育の充実	(1)「鳥栖市教育プラン」の「鳥栖スタイル」の推進 (2) 学力向上の推進 (3)小中一貫教育の推進 (4) 特別支援教育の推進

重点目標を具体的に評価するための項目や指標を盛り込む

3 目標・評価						
① 開かれた学校づくりを推進する。						
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	担当分掌(部)	担当者
学校運営	○開かれた学校づくり	積極的な情報発信と地域人材の開発	<ul style="list-style-type: none"> 学校運営の実際に係る情報を、学校便り、学校ホームページ、学校情報緊急メール等で積極的に発信する。 地域関係者の参観日・行事等への参加数を昨年度より増やす。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校便りの月1回の発行と地域への回覧・学校ホームページへの掲載、学校情報緊急メール発信、報道機関への取材依頼、PTAや各種団体との会合を通して、学校運営の実際に係る情報を発信するとともに、要望等を収集して改善に生かす。 地域連携及び地域安全ネットワークの構築の一環として、地域関係者に学校情報緊急メールの登録を働きかける。 小中一貫教育として、鳥栖中学校区の職員が4部会に分かれ、児童・生徒の知・徳・体の育成に向けて協議する場を設定する。 	管理職	校長 教頭
② 業務改善・教職員の働き方改革を推進する。						
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	担当分掌(部)	担当者
学校運営	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	衛生管理の改善、充実	<ul style="list-style-type: none"> 職場の環境美化に努める。 勤務時間の適正化と定時退勤日の徹底を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 定期的に職員室等の整理整頓と環境美化の時間を設定する。 業務記録を基に協議することで、勤務時間の適正化を図る。 業務記録票を基に全体・個別にタイムマネジメントを行い、全職員が19時30分までに退勤できるようにする。また、定時退勤日の確実な実施を働きかける。 	管理職	校長 教頭
		業務効率化の推進	<ul style="list-style-type: none"> 各担当業務の情報の共有化と業務の効率化を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 校務分掌や学年のデータを共有フォルダへ保存するよう啓発をする。 提案資料の作成を効率的に行い、特定の職員の負担軽減と会議時間の縮減を図る。 会議資料を事前に配布し事前に目を通しておくことで、会議時間の短縮を行う。 	管理職	校長 教頭
③ 教職員の資質向上を図る体制を充実させる。						
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	担当分掌(部)	担当者
学校運営	○職員の資質向上	<ul style="list-style-type: none"> 小中一貫教育としての4部会(学びづくり部、生活づくり部、仲間づくり部、特別教育支援部)を中心とした研究の推進 	<ul style="list-style-type: none"> 学びづくり部の算教科を中核とした「深い学びにつながる話し合う活動」の研究を通して、授業力向上を図る。 生活づくり部は基本的学習習慣・生活習慣の確立を図る。 仲間づくり部は人間関係構築・心の教育、特別教育支援教育部の特別支援教育の推進を通して、教師力の向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 学びづくり部を中心として、外部講師を招聘しての算教科に係る講話・指導案検討会・授業研究会、小小連携としての算数の共同研究、鳥栖中学校区3校合同研修会・研究発表会を通して授業力を高め合う。 外部・校内講師による研修会(教科、服務規律、学級経営、教育相談、特別支援教育)を開催する。 毎月の4部会及び鳥栖中学校区合同4部会での提案資料の作成・役割分担、PDCAサイクルの確立を通して、企画・運営力を高め合う。 	研究主任 4部会 部長	研究主任、 主幹

④ 安全な学校づくりを推進する。

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	担当分 掌(部)	担当者
学校運営	○安全な学校づくり	安全管理の徹底	<ul style="list-style-type: none"> 毎月20日の安全点検と日常的な観察で危険箇所を発見し、施設面の安全を確保する。 PTAと連携して、危険箇所点検と安全マップの見直し、子供110番の家マップの再点検と登録数増加に向けた働きかけやAED講習会を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 施設安全点検で不備があった場合、早急に改善する。校内での対応が難しい場合は、市教育委員会へ迅速に報告し、改善に向けて働きかける。 登下校時の安全を確保するために、PTA主催「交通指導員・子供守り隊との懇談会」で情報交換を行うとともに、連携強化を図る。 水の事故への緊急対応のため、PTA主催「心肺蘇生法・AED講習会」を開催する。 	管理職生活づくり部	教頭 岩橋
教育活動		安全指導の徹底	<ul style="list-style-type: none"> 立ち番指導、一斉下校指導、避難訓練で、登下校時の交通事故防止及び不審者による被害防止等を行い、児童の危機対応能力を高める。 危険箇所や安全マップの内容を児童に紹介し、登下校中の安全意識を高める。子供110番の家についても認識させる。 防犯ブザーの所持率を90%以上にする。 自転車のヘルメット保持・着用率を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> 地区児童会の折に、地区毎に一斉下校指導を行い、通学路の危険箇所や子供110番の家について指導する。 登下校中の危険行為や不審者事案等についてはその都度児童に知らせ、安全意識を高める。 地域安全ネットワークの構築の一環として、地域関係者に学校情報緊急メールの登録を働きかける。 外部講師を招聘して交通安全教室、防災・避難訓練(予告あり、予告なし)を実施し、児童の危機意識と危機対応能力を高める。また、避難訓練を通して、職員の安全体制を点検して改善に努める。 学校職員による登校時の立ち番指導、一斉下校指導時の安全指導・危険箇所や子供110番の家の確認を定期的実施する。連休前や長期休業前に、安全指導を確実に実施する。また、長期休業中に地域巡回指導を行う。 毎月20日の防犯ブザーの点検、年2回の自転車のヘルメット保持・着用率調べを実施し、保護者にプリントで改善を働きかける。 	生活づくり部	寺崎

⑤ 学力向上を図る体制を充実させる。

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	担当分 掌(部)	担当者
教育活動	●学力向上	TT・少人数指導による算数の学力向上	算数標準テストの期待得点を上回る児童が、88%以上になることをめざす。	<ul style="list-style-type: none"> 学習目標・内容及び児童の実態に応じて、学習形態(TT授業・少人数授業)を工夫する。 指導方法改善担当と学級担任との役割を明確にして、形成的評価をもとにした補充学習をしたり、児童の考えのよさを見出してほめながら、児童が「できた」「わかった」「話し合うことが楽しい」を実感する授業づくりをしたりする。 	学びづくり部	TT・少人数
		基本的な学習習慣の定着と家庭学習の質・量の向上	<ul style="list-style-type: none"> 「目を見てしっかり話を聞き、指名されたら返事をする」「チャイム着席(始業前には学習の準備をしておく)」「忘れ物0」「家庭学習時間を学年目標以上にすること」が達成している児童90%以上を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> 生活づくり部が中心となって、4項目それぞれの強化習慣を設定し、組織的・計画的に基本的学習習慣を定着させる。また、「自学の手引き」や「家庭学習の手引き」とともに、小中共通の期間でチェックシートを配布し、家庭との連携を図りながら家庭学習の充実、習慣化を目指す。 「授業づくりのステップ1・2・3」を全職員に配布し、学びづくり部が中心となって、授業の在り方(めあての提示、書く活動・話し合い活動・学習内容のまとめ・学習の振り返りの設定)を確かめていく。 朝のドリルタイムでは、国語科・算数科の内容についてそれぞれの部会で内容を検討して、共通の取り組みを行っていく。形成的評価(小テスト、業者テスト)の結果を基に特に、学力面で配慮を要する児童に対して、情報を共有し、級外職員も指導にあたる。 	学びづくり部	主幹
	●志を高める教育	夢と志を持ち、可能性に挑戦するために必要な力の育成	<ul style="list-style-type: none"> 郷土について学ぶ学習活動を、各学年1単元以上設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> 鳥栖市で取り組んでいる教科「日本語」の授業で、郷土についての学習資料を活用した授業に取り組む。 地域の教育資源や人材を活用する。 	学びづくり部	林

⑥ 生徒指導・教育相談の充実を図る。

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	担当分 掌(部)	担当者
----	------	--------------------	-------	-------	-------------	-----

教育活動	○生徒指導・教育相談	規律ある学校生活	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月の生活のめあてを意識させ、基本的な生活習慣を確立させる。 ・事案発生時の迅速な報告・連絡・相談を徹底し、チームとして適切に対応することで、早期の課題解決を図る。 ※あいさつについて ※小中一貫の取組み 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月の生活朝会で月のめあてについての講話を行い、全職員で指導を継続することで、徹底を図る。 ・生活づくり部を中心として、日常的な指導や強化週間等で、組織的・計画的に、基本的な生活習慣(進んで挨拶、無言掃除、スリッパ並べ、廊下歩行、整理整頓、友達を大切にする等)を定着させる。 ・開発的・予防的生徒指導として、児童に応じた出番や役割を与えて、称賛・承認して自己肯定感を高めたり、グループ活動で達成感を味わわせたり、構成的グループエンカウンターやソーシャルスキルトレーニング等で人間関係を築くスキルを学ばせたり、鳥栖市「いじめ・いのちを考える日」(毎月10日)を大切な日と位置付けた指導をしながら、望ましい人間関係に支えられた温かい学級・学年づくりを推進する。 ・生徒指導職員連絡会やケース会議、子供支援会議等を開催して、情報を共有する。迅速な報告・相談・連絡を基に、校務分掌担当及び関係機関と連携しながら、解決の方策を協議し、チームとして適切に対応する。 	生活づくり部	高尾
		教育相談の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・完全不登校を0人にする。 ・教育的配慮を要する児童に対するチーム支援を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員連絡会や子供支援会議で、配慮を要する児童の実態と支援の仕方について共通理解を図る。 ・学年、教育相談担当、養護教諭、管理職、通級指導教室担当、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、市教育委員会等とが連携を図り、児童の実態に応じたチーム支援を行う。 ・児童、保護者、職員のニーズ及び学校の課題を基に、教育相談担当者が、管理職とカウンセラー来校日の対応について協議し、スクールカウンセラーの有効活用を図る。 	生活づくり部	江頭
	●いじめ問題への対応	いじめ防止に向けた対策の強化	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめに対する組織的な未然防止に努める。 ・いじめの早期発見と早期対応に努める。 ・児童の人権意識を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校内外の児童の交友関係や言動を注意深く見取り、いじめを早期に覚知する力を高めるための校内研修会を実施する。月3日以上欠席の児童に対応(いじめ、不登校の可能性)する。 ・児童との対話を心がけ、温かいふれあいをすることで人間関係づくりをし、児童・保護者の些細な悩みにも誠意ある対応をして早期解決に努めることで信頼関係を築き、悩みを相談しやすくする。 ・外部人材を活用しての親子情報モラル教室、心の教育等を実施して、児童の人権意識を高める。 ・毎月1日ののこにこアンケート(年2回は県指定のアンケート)や、年1回のQ U検査を実施して、いじめの早期発見に努める。 ・毎月10日の鳥栖市「いじめ・いのちを考える日」に、いじめ防止、生命尊重に関わる学級指導等を実施する。 ・いじめを覚知した場合は、迅速に管理職に報告し、関係機関と連携しながら、チームとして対応し、早期解決を図る。 	生活づくり部	高尾・主幹

⑦ 心の教育の充実を図る。

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	担当分掌(部)	担当者
----	------	--------------------	-------	-------	---------	-----

教育活動	●心の教育	道徳の授業の充実と望ましい仲間づくり	<ul style="list-style-type: none"> 道徳の授業を充実させ、全学級で年1回以上「ふれあい道徳」を実施する。 全教科等で豊かな体験活動を設定し、道徳性を育成する。 学級全体で、学級の人間関係づくりにつながる取組を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 考え議論する道徳の授業、問題解決的な道徳の授業を実施する。全学級が、授業参観時に年1回以上「ふれあい道徳」を実施する。 仲間づくり部が中心となって、道徳性の育成につながる行事や児童会活動の実施、掲示物の工夫、学級の人間関係づくりにつながる取組(ありがとうカードの記入、グループエンカウンター、ソーシャルトレーニング等)を行う。 外部人材を活用したり、豊かな体験活動を設定したりすることで、他者理解(他者を思いやる心)と生命尊重(かけがえのない命を大切に作る心)等の豊かな心を育成する。 	仲間づくり部	宮崎
		明るく元気な挨拶	<ul style="list-style-type: none"> 学校評価(保護者アンケート)の「児童の挨拶がよくできている」の評価を、80%以上に向上させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 挨拶がよくできている児童や学年等を紹介したり、「挨拶がよくできているねカード」を配布したり、挨拶重点月間を設定したりする。小中一環教育の取組として鳥栖中学校の生徒との合同挨拶運動を実施して挨拶に対する意欲を高める。 各種会合に参加し、地域安全ボランティアの方々と情報交換をして、挨拶の状況を把握し、指導方法の改善に生かす。 児童の挨拶の状況に係る情報を発信することで、地域・保護者と成果・課題の共通認識を図り、改善に向けた協力を依頼する。 		

⑧ 健康・体づくりを推進する。

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	担当分掌(部)	担当者
教育活動	●健康・つくり	運動習慣の改善や定着化 食育の推進	<ul style="list-style-type: none"> 児童アンケートで、朝食摂取95%以上をめざす。 「早寝、早起き、朝ごはん」の周知徹底を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 栄養教諭と学級担任とのTT授業を全学年で実施して、「早寝、早起き、朝ごはん」の大切さを認識させる。また、給食だより、保健だより、学校便り等を活用して、児童、保護者への啓発を図る。 	仲間づくり部	堤川原乗富

⑨ 特別支援教育を推進する。

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	担当分掌(部)	担当者
教育活動	○特別支援教育	特別支援教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> 特別支援教育に係る研修会を開催する。 校内研修会、子供支援会議等を通して、特別支援教育の理解促進と個に応じた支援体制を充実させる。 関係機関との連携を図りながら、チームとして支援する。 	<ul style="list-style-type: none"> 特別支援教育コーディネーターや外部講師を活用した研修会を実施して、特別支援教育に係る知識・技能を獲得する。 子供支援会議等で、教育的配慮を要する児童の実態・具体的支援の仕方についての共通理解を図り、全職員がチームとして支援する。 巡回相談員や専門家を活用したり、特別支援学級担任が生活指導補助員と児童の実態把握と今後の支援に係る打ち合わせ会を行ったりすることで、個に応じたきめ細やかな指導につなげる。 	特別支援部	中島幹古賀直

本年度の重点目標に含まれない共通評価項目

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	担当分掌(部)	担当者
教育活動	○小中一貫教育	小中一貫教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> 3校の職員で目標・成果及び課題を共通理解し実践するとともに、保護者へ鳥栖中学校区における取組を周知していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 小中合同の研修会を2学期までに2回設定し、取組を共有したり、反省点を2学期に生かせるようにする。 各校の代表者による話し合いの後は、必要事項をまとめ、職員に配布する。学期に一回以上小中一貫だよりを保護者に配布する。 	4部会	主幹
教育活動	○教科「日本語」	教科「日本語」の推進	<ul style="list-style-type: none"> 教科「日本語」の授業を充実させ、児童に教科「日本語」に親しみを持たせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 教科「日本語」の授業を充実させるために、手引きや実践集をもとに、児童の実態を考慮し、興味を持たせる授業づくりを行う。 	学びづくり部	江上

●は共通評価項目のうち必須項目、○は独自評価項目